

岩手県久慈市支援活動報告（2016年9月17日）

当初、9月17日に行う活動は、台風10号で被災した久慈市の支援活動の予定でしたが、急遽岩泉町の緊急支援活動が入ったため、参加者を久慈市と岩泉町に分けてそれぞれの活動を行うことになりました。



道の駅おりつめでの集合写真

6時30分に、市民20名、学生15名、教員2名と同行取材をしていただいた東奥日報の記者1名の計48名で弘前大学を出発し、道の駅おりつめで久慈市チームと岩泉町チームに分かれました。ここでは、久慈市のボランティアの様子を中心に報告をします。

おりつめから久慈に向かったのは、市民17名、学生8名、記者1名、教員1名の合計27名でした。久慈市の災害ボランティアセンターに到着すると、すでに多くのボランティアが集まっていました。この日は、2か所に分かれての活動になりました。

作業のための道具などをバスに積み込んで、現地のセンターの担当者2名を乗せてバスで現場まで移動します。15分ほどバスに揺られたところで、最初のグループ10名がバスから降りました。もう一つのグループは、それからさらに山道を進んでいき、ダムを通り過ぎてしばらくしてからようやく現場に着きました。30分程度バスに乗っていたでしょうか。終了後のバスの中でも一部の参加者が言っていました、当然久慈市の中心部で活動をすると思っていたので、いささか面を食らいました。

現場は、周囲を山に囲まれ、その真ん中に川が流れる地形で、市の中心部からは大分離れています。数日前まで電話が通じていなかったようで、ボランティアを要請できることも十分に周知されていないということでした。まだまだ手が届いていない場所が多くあるということを感じ知らされた気がします。



泥上げ作業の様子

私が参加した 17 名のグループは、個人のお宅の床下の泥上げ作業を中心に行いました。現場に到着した時には、すでに畳などはすべて上げられ、床下が露出した状態になっていました。3 部屋あったので、4 人ぐらいのグループを 3 つ作って、ドンドン泥を土のうに詰めていきました。その土のうを一輪車で庭の隅に運び、土のうから出して積み上げていきます。この土のうから泥を出す作業も 4 人ほどが関わりました。泥の堆積量もさることながら、床下で作業スペースが限られることもあって、なかなか思うように作業は進みませんでした。何とか協力して役割分担を明確化することで作業効率が上がり、午後にはほぼすべての泥を除去することができました。その後、若干時間があったので、物置周辺や犬小屋の泥を除去する作業を行い、何とか求められた作業を終えることができました。作業がすべて終わって引き上げる時、ご高齢の依頼主ご夫婦から何度も何度もお礼を言われ、笑顔でバスが見えなくなるまで見送りをしてくださいました。



作業がほぼ終わった床下と積み上げられた泥

もう一つの 10 名のグループは、道路の泥上げをしたそうです。堆積した泥の量が多く、

すべてを取り除くことができなかったということです。それが心残りだったと仰っていた方もいました。最終的には、泥で埋まっていた自動車を掘り出し、何とか使えるような状態にまで泥を除去してきたそうです。



至る所に見える台風の爪痕

帰りも道の駅おりつめで岩泉町チームと合流し、弘前に戻りました。帰りのバスの感想でも、充実した活動だったという声が数多く聞かれました。

(文責:平野 潔)

岩手県岩泉町緊急支援先遣隊活動報告（2016年9月17日）



本日は、台風 10 号で甚大な被害に見舞われた岩手県岩泉町で緊急支援活動と、先遣隊として被害状況、ボランティアの活動状況に関する調査活動を行いました。先遣隊の派遣は、本学の卒業生で現在岩泉高校に勤務中の千葉さんのボランティア要請を受けて、今後の支援活動を検討するために実施したものです。

先遣隊には被災状況などを考慮して、東日本大震災の支援活動の経験をもつ市民 3 名と、体力に自信のある学生 7 名、教員 1 名、そしてチーム北リアスと一緒に活動を行っている八戸高専の河村先生が同行してくれました。

弘前大学正門前を出発して、岩泉町災害ボランティアセンターに到着したのは、10 時 30 分でした。九戸インターで高速を降りてからは、国道 340 号線で岩泉町まで入りました。途中、所どころ道が崩れていて一方通行があったものの、道路の状況は予想より良好でした。岩泉町災害ボランティアセンターから作業指示を受けたのは、今回の台風で最も被害が大きかった安家（あつか）地区でした。災害ボランティアセンターから現地までは送迎バスで送ってくれました。

安家地区に到着した瞬間、被害の大きさにびっくりでした。全壊の家が数多く見えました。また、破壊を免れた家のほとんども家の中は泥で追われていて、床上 1メートル以上が浸水しているような様子でした。すでに多くのボランティアが活動を始めていました。ほとんどの作業は、家の家財道具を外に出して、溜まった泥を出す作業でした。

学生 7 名と教員 1 名で当たったお宅は、安家地区の一番上流にあたる地区で、川に面して建てられたお宅でした。すでに、盛岡や東京、埼玉などから来たボランティアが泥出しの作業を行っていました。我々のチームも作業に加わり、リビングと台所の床下に溜まっ

て



いる泥を出す作業を行いました。

作業の手順としては、作業をしやすくするために、床の巾木を取り除き、泥を運び出すためのネコ車の足場を作り、泥をかき出すチームと運ぶチームに分かれた作業を開始しました。作業には、他のボランティアと依頼主のお父さんも参加して下さいました。大変な状況の中でも一緒に作業して下さいましたお父さんと、飲み物などを進めて下さったお母さんの笑顔がとっても印象的で、ボランティアのみんなを和ませてくれました。

作業は昼休みをはさんで、14時40分ごろまで続け、目標とした居間と台所の床下の泥は全部出すことができました。後は床下に石灰をまいて、乾かします。そして、巾木を拭いて、仮の床板を張れば一応生活できる状況までは復旧できると思います。後の作業は次のボランティアに託して、隣の川で汚れた道具や長靴などを洗って集合場所に移動しました。何度もお礼の言葉を言いながら、笑顔で見送って下さった依頼主のご夫婦に見送られ、帰ってきました。

(担当:李永俊)